



「スマートシティ会津若松」での 地域幸福度指標の活用

会津若松市 企画政策部
企画調整課 スマートシティ推進室

現住人口 112,780 人 世帯数 49,270世帯

2023年11月1日現在

地理

- 東北地方、福島県の西部に位置
- 磐梯山や猪苗代湖などの豊かな自然に囲まれた、自然景観に恵まれたまち。

まちなみ

- 中心市街地の歴史的景観やまちなみ景観が城下町の風情を残す

産業

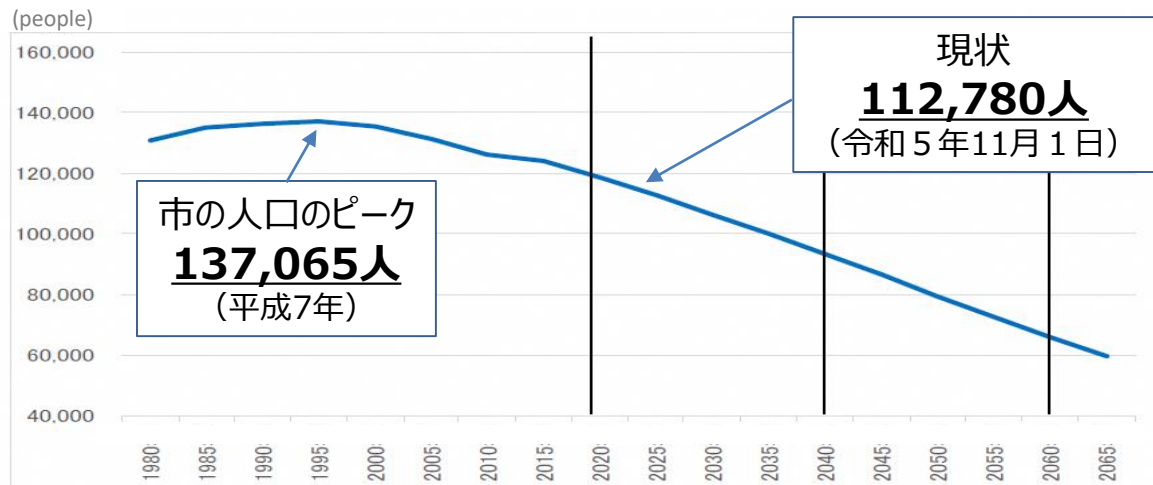
- 国内有数の観光産業(鶴ヶ城、白虎隊等)
- 稲作や施設園芸を中心とした農業と酒、漆器等の地場産業
- ICTオフィス「スマートシティAiCT」を核とするICT関連企業の集積

会津大学

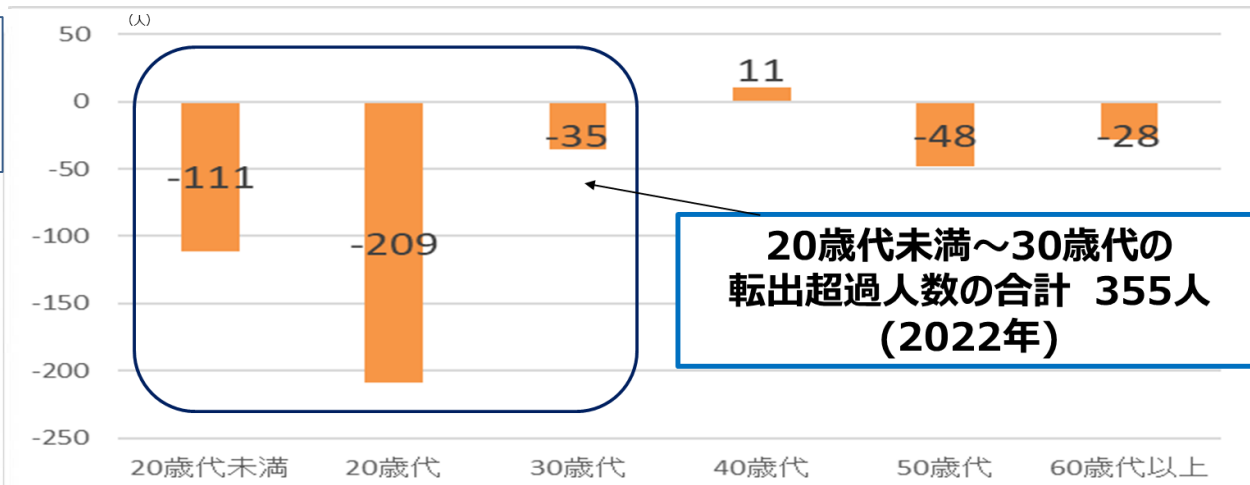
- 1993年開学のICT専門大学(公立)
- 先進ICT研究・教育(多数の研究者、学生)
- 多数の会津大学発ベンチャー企業



■ 年1,000人以上のペースで人口が減少



■ 30歳代までの年代の転出超過が際立って多い



「スマートシティ会津若松」(H25～)

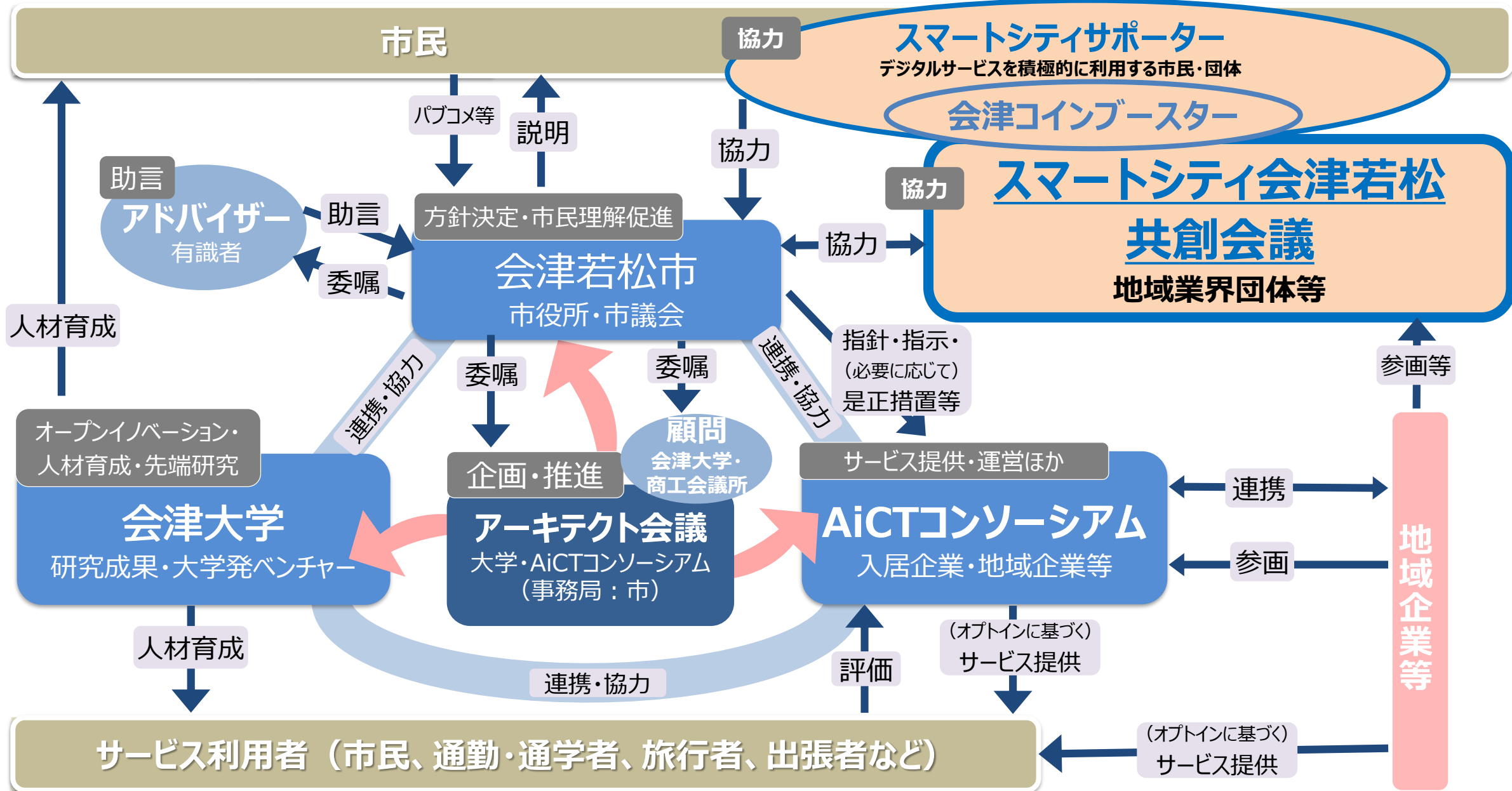
将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことのできるまちづくりを進めるため、健康や福祉、防災、地域経済、エネルギーなど、生活に関わるあらゆる分野で、ICTや環境技術などを活用した取組を推進。

魅力的なしごとづくり

生活の利便性向上

まちの見える化

「スマートシティ会津若松」の地域での推進体制



スマートシティの取組とLWC指標に関する理解・普及啓発のため、スマートシティサポーターやスマートシティ会津若松共創会議のメンバー、関係者等を対象にワークショップを実施。

- 日時：
令和4年12月23日（金）13:00～17:00
- 場所：スマートシティAiCT交流棟
- テーマ
 - ・ 各領域における会津若松市の良いこと・困っていること
 - ・ スマートシティによる課題の改善、日常への波及効果
- プログラム
 - ・ LWCiを活用した現状把握
 - ・ 課題の分析
 - ・ スマートシティの効果分析
 - ・ 今後に向けた意見交換
 - ・ 各グループの発表
- 参加者 34名（市民、関係者等）



LWC指標（Liveable Well-Being City指標）：

市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を可視化する指標として、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが作成・開発した指標

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」<https://www.sci-japan.or.jp/LWCI/>

当市のアドバイザーでもある、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートの南雲岳彦専務理事にご協力いただき、Well-Beingに基づく政策デザインに関する職員向けの研修を実施。

- 日時：
令和5年6月～8月
- 場所：
会津若松市役所追手町第二庁舎・
生涯学習総合センター
- 目的：
 - 「Well-being」や「地域幸福度指標」についての理解を深めながら、市民の幸福感向上を図るため、本市の課題や強み等について考えるきっかけとする。
 - また、「地域幸福度指標」を用いたロジックモデルにより、エビデンスに基づいた政策立案・評価等を行うスキルを高める。
- 参加者
政策立案・評価等に関わる職員で、希望した者 19名



まち・ひと・しごと創生法に基づき、国が策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、「第2期会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂予定。
改訂後の戦略において、地域ビジョン「暮らし続けたいまち」の実現に向けた事業効果等の見える化を図るため、LWC指標を活用する予定。

新総合戦略（改訂後の新たな地方版総合戦略）のポイント

- ・地域ビジョン
- ・基本目標（柱）の設定
- ・**「地域幸福度（Liveable Well-being City）指標」の活用**
→デジタル庁が現在普及を進めている「地域幸福度指標」を活用し、地域ビジョン「暮らし続けたいまち」の実現に向けた事業効果等の見える化を図ります。
- ・「スマートシティ会津若松」の推進に係る共通ルールの明文化